

## 令和6年産水稻の出穂状況について（7月29日現在）

### 1 出穂状況等（概況及び今後の管理）

- 7月29日現在、水稻作付見込面積の55.7%の水田が出穂期<sup>※1</sup>に達している。県全体の出穂期<sup>※2</sup>は、7月29日で平年より3日早い。
- 出穂直前から穂揃期は稲が最も水を多く必要とする時期なので、水を切らさず土壌を湿った状態に保つ「**飽水管理**<sup>※3</sup>」を徹底する。特に、フェーン現象による高温と乾燥の発生が見込まれるときは、速やかにかん水し、水を切らさないようにする。
- 斑点米カメムシ類の発生量は平年より多く、早く発生している。出穂状況を確認して防除時期が遅れないよう注意し、「穂揃期」と「その7～10日後」の2回防除を基本として実施する。ほ場内に雑草が残っている場合は、1回目の散布時期を「出穂始～穂揃期」に早めると効果が高まる。

※1 出穂期（しゅつすいき）：ほ場内の50%以上が出穂に達した時期  
 ※2 県全体の出穂期：水稻作付見込面積の50%以上が出穂期に達した時期  
 ※3 飽水管理（ほうすいかんり）：田面が浸るくらいに入水し、水田にある足跡に水がなくなる頃を目安に入水する水管理方法。必要とする水の量が少なく、出穂後高温による玄米の品質低下を抑制する効果がある。

### 2 出穂状況（具体的データ）

#### （1）県全体

区分	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
本年	7月24日	<b>7月29日</b>	未
平年	7月28日	8月1日	8月9日
平年差	4日早い	<b>3日早い</b>	—
(参考)前年	7月26日	7月30日	8月5日

※平年値は平成26～令和5年の10ヶ年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8ヶ年の平均値。

#### （2）地方振興事務所・地域事務所別

地区名	水稻作付見込面積 (ha)	7月29日現在出穂状況		出穂(月日)			(参考)平年値		
		出穂面積 (ha)	進行率 (%)	出穂始期	出穂期	穂揃期	出穂始期	出穂期	穂揃期
大河原	6,014	4,023	66.9	7/20	7/26	未	7/27	7/31	8/9
仙台	10,381	5,848	56.3	7/22	7/28	未	7/28	8/1	8/8
大崎	15,997	11,476	71.7	7/24	7/28	未	7/28	8/1	8/8
栗原	8,529	3,104	36.4	7/26	未	未	7/29	8/1	8/10
登米	8,761	3,680	42.0	7/26	未	未	7/29	8/1	8/7
石巻	6,470	3,409	52.7	7/25	7/29	未	7/29	8/1	8/9
気仙沼	612	65	10.6	7/28	未	未	8/1	8/4	8/10
県計	56,763	31,605	<b>55.7</b>	7/24	<b>7/29</b>	未	7/28	8/1	8/9

※出穂始期、出穂期、穂揃期は、進行率がそれぞれ5%、50%、95%に達した時期をいう。  
 ※作付見込面積は令和5年産の水田における作付状況(令和5年9月15日時点)の主食用米面積を用いた。  
 ※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。  
 ※平年値は平成26～令和5年の10か年のうち最も早い年と最も遅い年を除いた8か年の平均値。

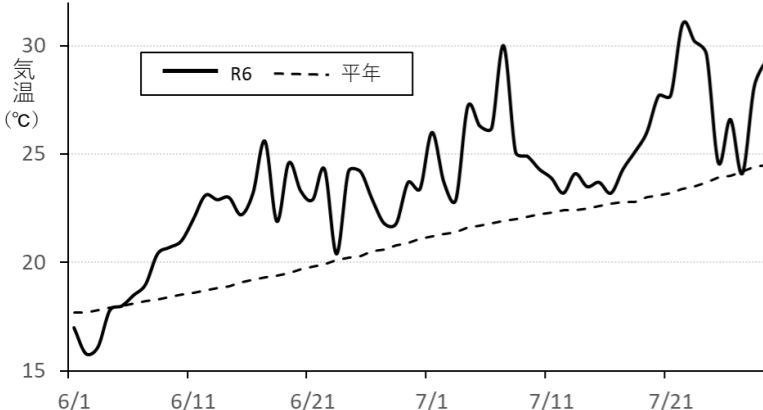
#### （3）地帯区分別

地帯区分	水稻作付見込面積 (ha)	7月29日現在出穂状況	
		出穂面積 (ha)	進行率 (%)
山間高冷	830	144	17.3
西部丘陵	4,775	2,784	58.3
北部平坦	37,801	20,617	54.5
南部平坦	4,877	3,453	70.8
三陸沿岸	1,190	355	29.8
仙台湾沿岸	7,290	4,252	58.3
県計	56,763	31,605	55.7

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

### 3 気象経過（仙台アメダス）

平均気温の推移（仙台アメダス）



時期	平均気温(°C)		降水量の合計(mm)		日照時間(時間)	
	平年差	平年比	平年比	平年比		
5月	17.8	2.2	82.0	74%	235.6	123%
6月	21.5	2.3	93.0	65%	198.7	138%
7月 上半旬	25.7	3.9	46.5	75%	27.9	73%
	24.5	1.8	20.5	31%	34.3	90%

※次回は8月2日の調査結果を8月5日に発表予定です。